

<p>困ったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2月下旬より、地区福祉委員会活動（高齢者のつどい、生きがいデイ、地区福祉委員会）を自粛した。それにより、代表者等と個別に電話連絡しかできず、委員が集まって地域の現状等について話し合うことができなかった。</li> <li>・ 昨年12月は民生委員、福祉推進委員が3年に1度の改選であったが、引継ぎ等が十分にされないまま、活動自粛になった。</li> <li>・ 緊急事態宣言が出されると、集会所等の施設が使用できなくなり、活動再開に向けた協議もできない状態になった。</li> <li>・ 自粛が長期になると、高齢者の身体機能や認知機能の低下等されるようになった。</li> <li>・ 市内で取り組まれているつどい場も、活動自粛となった。</li> <li>・ 地域の祭りなどのイベントはほとんどが中止になったことで、参加の場や交流の場がなくなってしまった。</li> </ul>
<p>工夫したこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民生委員と福祉推進委員が一人暮らし高齢者等に、手紙やマスクのポスティングや、電話による安否確認を行った。対象者から直接お礼の連絡があるなど、「気にかけている」ことを伝えることができた。</li> <li>・ 旧民生委員と新民生委員と一緒に訪問しインターホン越しに対象者と言葉を交わすことにより、引継ぎをすることができた。</li> <li>・ 公園で行われてるラジオ体操等は、三密が避けられるため継続して実施されたところもある。</li> <li>・ 地域の機運が高まりコープの移動店舗（3か所）を始めることができた。遠方に外出できない高齢者の買い物の場の確保につながった。</li> <li>・ 生きがいデイについては、時間の短縮や2部制、会場の変更など、「三密」を避ける工夫をしながら7月から徐々に再開している。</li> <li>・ 市内のつどい場も、参加者から再開の要望が強く、感染対策をしながら徐々に再開している。</li> <li>・ 共同募金配分金事業について、各地区福祉委員会で開催している「高齢者のつどい」の開催が困難になったため、訪問活動へ活用できるよう対応した。それにより、これまでより多くの高齢者を訪問することができた。</li> <li>・ 認知症カフェを、学生の協力によりオンラインで開催した。参加者からも好評で認知症カフェの新しい開催方法の発見となった。</li> </ul>
<p>残された課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区福祉委員会について             <p style="margin-left: 20px;">集会所等の定員により地区福祉委員会のメンバー全員での会議の開催が困難となっているため、委員同士での活動内容やその方向性についての協議が少なくなっている。</p> <p style="margin-left: 20px;">活動再開に向けての心理面でのハードルが高い。</p> <p style="margin-left: 20px;">活動が縮小し、地域住民の居場所が少なくなっている。</p> </li> <li>・ 生きがいデイサービスについて             <p style="margin-left: 20px;">集会所等の定員により、定員を大幅に縮小しなければならないため、従来から参加していた人全員が今までどおり参加できない状況になっている。</p> <p style="margin-left: 20px;">歌う会などの飛沫の対策が必要である活動、福祉施設を会場としている活動については再開が難しい。地域住民の居場所が少なくなっている。</p> </li> </ul>